

NPO法人 共に歩む市民の会



会 報

2020年1月1日 発行

共に歩む市民の会広報委員会

通巻 第57号

横浜市旭区鶴ヶ峰 2-1-16

☎045-453-8386

【巻頭言】

新年にあたり望むこと

新年、明けましておめでとうございます。
今年も、皆様にとって素晴らしい年になりますようお祈り致します。また、日頃の、当法人へのご支援・ご協力に対し改めて感謝申し上げます。今後のご支援・ご協力もお願い致します。

さて、この原稿締切が迫った昨年12月12日(土)に旭区地域生活支援フォーラムが開催されました。このフォーラムにほっとぼっとの深井さん、澤田さん、秋葉さんが発表するというので、その応援のためにフォーラムに参加しました。当初は、メンバーさんの応援だけで帰るつもりでしたが、講演を聞くほどについつい引き込まれ、最後まで聴講してしまいました。

そこで、フォーラムの感想と、講演や日頃の家族支援活動からの、私の思いを述べます。

■フォーラムの感想

ほっとぼっとのメンバーさんの発表では精神障害のある人(以下、当事者)が日常生活の中でどんなことに困り、どのように対処しているかが、また、別の発表ではさり気ない見守りがいかに大事であり、当事者の支えになるかということが、非常に分かり易く報告されました。

更に、一般社団法人スローコミュニケーション代表 野沢和弘氏の「ともに生きる・輝く社会に」という基調講演では大きな感動を受けました。野沢氏にはご家族に当事者がおられるとのことで、新聞記者時代の説得力のある取材内容や、東京大学非常勤講師として福祉の大切さを説かれた結果、共感した学生が周囲の反対を押して福祉の世界に進まれたという話など、感銘を受ける話ばかりでした。

■【思い1】ワンストップ(断らない・つなげる)相談支援窓口の設置

私は、日頃の家族支援活動の中で、どこに相談したらいいか、どんな支援が受けられるかと困っておられる家族によく出会います。

例えば、病状が重く、受け入れてくれる病院がなかなか見つからず、やっと見つかったような治療をしてもらえない家族、当事者の暴力のために、両親が自宅を出て外から当事者を支援せざるを得ない家族、多剤大量の服薬のために日

共に歩む市民の会 理事 浅田 和徳

常生活に支障を来している当事者を抱えて困惑している家族、当事者は通院しているものの、家族自身の相談・支援先が見つからず、家族としての対応方法に苦悩している家族など。

状況が厳しい家族ほど、相談・支援先につながないケースが多いように思います。

是非、ワンストップで相談・支援が受けられる窓口が設置されることを強く望みます。

■【思い2】家族支援の強化

横浜市では、社会とつながっている当事者に対しては福祉制度・サービスはかなり充実していると思います。ところが、前述のケースに加え、家庭に引きこもっている、更には治療にもつながっていない当事者・家族に対しては医療や福祉の十分な支援が行き届いていません。

このような場合、まずは、家族が動かざるを得ません。家族自身や関連機関と協力して支援につなげる活動が必要になります。

そのためには、家族が適切な知識や対応の仕方を学び、日常生活の中で当事者と向き合いながら対処することが非常に大事だと考えます。

行政・医療・福祉の関係者の皆様には、日頃のご支援・ご協力にはたいへん感謝致しております。今後更に、これらの私の思いを実現できるようなご支援・ご協力をお願い致します。



恭賀新年

今年は躍動の年になりそうです

皆様のお力が今以上に必要となります

よろしく願いいたします

令和2年元旦

共に歩む市民の会 理事長

深井 浩治

新春特別企画【十年紀(Decade)に寄せて】

広報委員より

欧米では10年毎に西暦を区切った考え方をします。日本ではあまり一般的ではありませんが慣用句として十年一昔と言う言い方がありませんか。

そこで2020年を迎え、これまでの10年間を振り返ると共にこれからの10年間に思いを馳せたいと思います。

2010年代はバンクーバーオリンピックと共に始まりました。はやぶさが迷子になりながらも地球に帰還したのもこの年のことでした。

そして東日本大震災を皮切りに幾多もの災害に見舞われた10年間でもありました。地震だけでなく、洪水、台風被害とこれでもかと悲劇が押し寄せたことは忘れられません。

そんな中、小さな希望の光は相鉄線が新宿まで乗り入れ開始したことでしょうか。

さて、これからの10年間はどんな年になるのでしょうか。既にわかっていることだけを書き上げて見ますが、まずは東京オリンピック、パラリンピック。新東名高速道路の開通などオリンピックに併せてインフラ整備が進みます。

成人年齢は20歳から18歳に引き下げられますが、団塊の世代が後期高齢者となるのもこの頃です。新しい紙幣も発行されます。スペインのサグラダ・ファミリアは完成予定ですが、横浜駅の改修工事の完成予定は今のところ未定です。

こんなことを踏まえて、皆さんに今後10年間について次の質問をさせていただきました。

- ① 10年後、あなたは何をしていますか？どうなっていますか？
- ② その時あなたはほっとぼっとや市民の会とどう関わっていると思いますか？
- ③ ほっとぼっと、新しく作ろうとしている地域活動支援センターは、どうなっているといいなと思いますか？
- ④ 2029年のあなた自身に掛けてあげたい言葉はなんですか？

アドバイザー 長見 英知

- ① だいぶ歳をとってはいますが、何とか精神保健福祉士として、きちんとした活動が続けられていると

よいなあと思います。特に訪問相談や、ハイケアの方のためのグループホーム等の運営を実現できると良いのですが…。そのために今から頑張ります。

- ② 客観的な意見は会の運営に不可欠なので、できれば今と同じようにずっとお手伝いさせていただきたいと思っております。
- ③ きっと大成功していると思います！これは間違いないです！ピ・アが主役の温かい思いがあふれる素敵な場になっていると信じております。
- ④ 先の設問では大きなことを言いましたが、たまにはちゃんと休むようにと……。今の自分に対してもですが…。

ほっとぽっと職員 高橋 昌視

- ① ほっとぽっとで「たくさんの仕事」をしていると思います。現場でたくさんを経験しながら、いろいろなことを学び、またいろいろな場所に行き、「たくさんの人と出会っている」と思います。
- ② 職員として関わっていると思います。「ほっとぽっと」や「市民の会」と将来について一緒に考えながら進めていると思います。
- ③ たくさんの方が通所できる場所になっていると良いと思います。また、地域の方やボランティア・ピアスタッフ・職員がイキイキと活動している場所になっていると良いと思います。そして、利用している方が少しでも「笑顔」になればと思います。
- ⑤ あまり頑張りすぎずに「ひと休み」。

男性の利用者(匿名希望)

- ① (10年後には)63歳なので働いてないと思います。
- ② 若い人が多く利用しているか？古い人は少なくなっていると思います。
- ③ 福祉の拠点になっている
- ④ 今と変わらずにいたいと思います。

女性の利用者(匿名希望)

- ① 今と同じで過ごしていると思います。からだがいたみがなくなしてほしいと思います。
- ② たぶんほっとぽっとにかよっていると思います。でも年がたかいのでどうなっているかわかりません。
- ③ 楽しくすごしていきたいと思います。
- ④ からだを大事にしてがんばって生きてください。そしてほっとぽっとですごしてくださいね。

ほっとぽっと職員 塚田千明

- ① 正直、年齢のことを考えるとゾツとしてしまいますのであまり想像したくないのですが(笑) 穏やかで幸せな家庭を築いていたいと思います
- ② う～ん。あんまり関わっていないかもしれませんね。
- ③ 昨今の情勢や生活支援センターに求められるものを考えると現在と同じと言うわけには行かないでしょう。出向くことのできる利用者さんに対しては「ほっとぽとらしい」地活が居場所となっていくのではないかと。そしてその地活と連携しながら「横浜市らしい」生活支援センターとなっているのではないのでしょうか。
- ⑥ 10年前は大変なことが起こっていたと思うので20年前の若々しく楽しかった日々を思い出そう！(笑)

ほっとぽっと利用者(男性・匿名希望)

- ① 一般企業で障害者雇用枠、又は普通に障害者枠ではなく働いている。そして、通信制の大学で学んでいる。
- ② 時間は今と違ってとてもすくなくなるだろうが…
- ③ その共に歩む市民の会が新しく施設を作っているとしたら、
・利用者もスタッフも「したい」をチャレンジできる場所
・型にはまらず方を作らず拘りを持たずに利用者、スタッフが関わりあえるなっているといいと思う。
- ④ 「やりたいことできてるかい？」



第71回理事会報告

日 時:10月24日(木)18:30~21:00

場 所:ほっとぽっと別館

出席者:理事:9名

<審議事項>

- ① 生活支援センター標準化の実施状況について
- ② 移転先調査の進捗状況について
- ③ 地活センターの準備状況について
- ④ 来年度予算申請内容について
- ⑤ 上期会計報告
- ⑥ 法人のロゴについて

2020年1月~4月

市民の会・ほっとぽっと スケジュール

★『やみなべ会』の開催

日時 1月29日(水) 18:00~

場所 ほっとぽっと別館 サロン

★『第21回旭区精神保健福祉セミナー』 当事者体験発表+講演

日時 2月22日(土) 13:00~15:50 会場 旭公会堂(旭区役所4F)

テーマ 「何故こわいと思われる精神障害者 あたりまえに地域で暮らせる喜び」

講師 蔭山 正子氏 (大阪大学大学院 公衆衛生看護学教室 准教授/保健師)

★フットケア講座 足元から健康 いきいき満足習慣

日時 2月13日(土) 14:00~15:30

場所 本館2F

共に歩む市民の会会員を募集しています

私たちの活動に賛同して下さる方、どうぞ会員となって支えてください。

一人でも多くのサポーターが必要です。私たちと共に歩んでくださる方々を募集しています。

2020年を迎え理事長のご挨拶により多くの方がたのご協力をお願いいたします。

編集後記

いつまでも終わらない夏、そんな思いでいましたらいつのまにやら新年を迎えてしまいました。今年は暖冬だといわれていますが、関東地方は暖冬の年ほどドカ雪が多い傾向にあります。

激動の一年の幕開けです。どうぞ今年もよろしくお付き合いください。(國井)